

八頭町地球温暖化対策実行計画の実施状況の公表 (令和4年度実績)

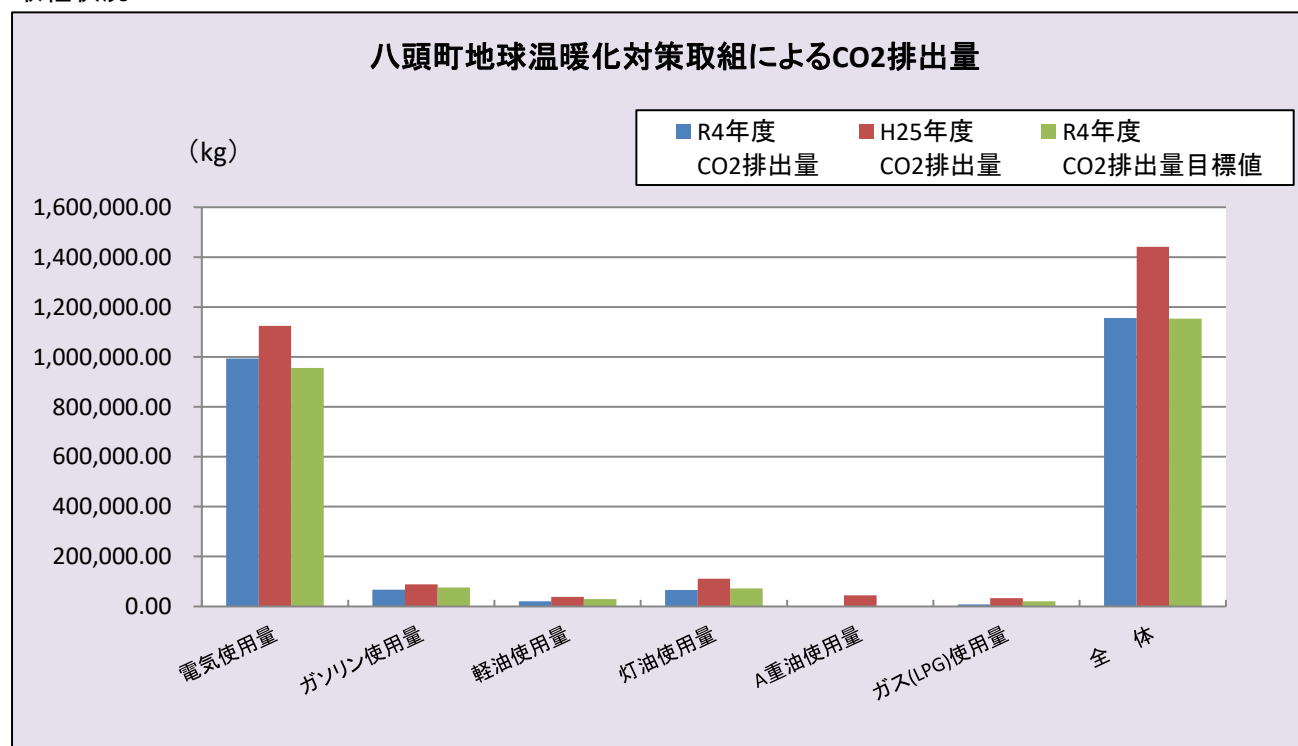
削減目標

本計画は、平成22年8月に平成21年度実績をもとに目標値を見直し、平成24年度の二酸化炭素を対象とした温室効果ガス総排出量を、平成17年度対比で9.0%削減することを目指してきました。現在、計画第3期(平成30年度～令和4年度)として、二酸化炭素を対象とした温室効果ガス総排出量を、平成25年度対比で20.0%削減することを目指して取組みを行いました。

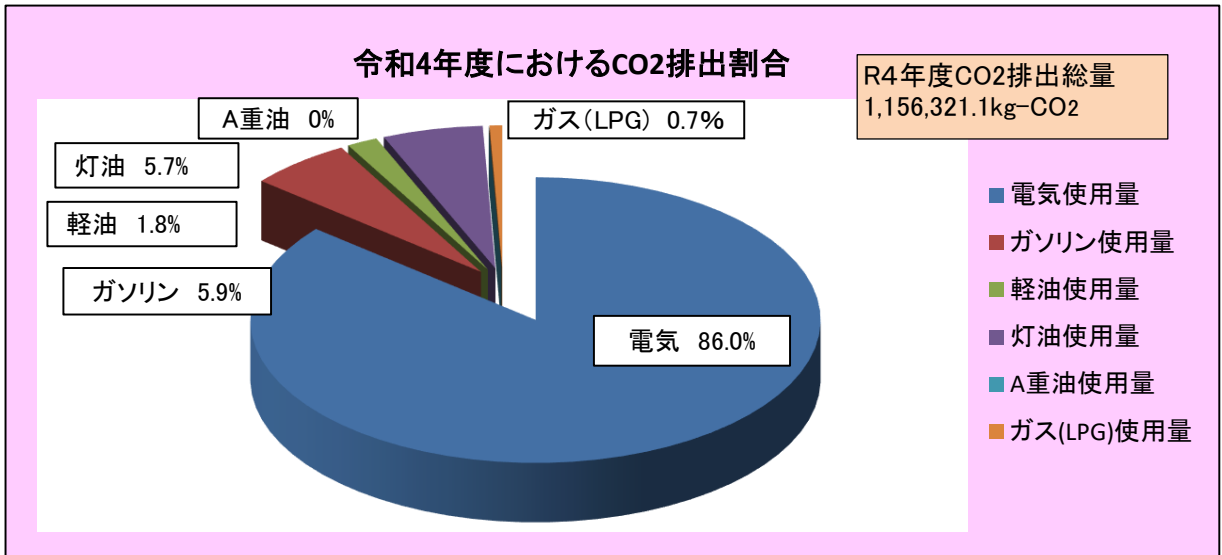
各取組項目別の削減目標と令和4年度使用状況

項目	令和4年度目標 (対平成25年度比)	単位	(基準年) 平成25年度 使用量等	令和4年度 使用量等	令和4年度 CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	使用量等 削減率	令和4年度 達成状況
電気使用量	15%以上削減	kwh	1,524,278.0	1,831,890.0	994,404.9	-20.2%	×
ガソリン使用量	15%以上削減	ℓ	38,330.1	29,180.1	67,697.8	23.9%	○
軽油使用量	25%以上削減	ℓ	15,075.9	7,849.8	20,252.5	47.9%	○
灯油使用量	35%以上削減	ℓ	44,545.0	26,404.0	65,746.0	40.7%	○
A重油使用量	100%削減	ℓ	16,367.0	0.0	0.0	100.0%	○
ガス(LPG)使用量	40%以上削減	m ³	5,095.9	1,254.9	8,219.9	75.4%	○
紙使用量	可能な限り削減	枚	2,182,477.0	3,066,563.0	—	-40.5%	×
水道使用量	可能な限り削減	m ³	24,698.0	19,253.0	—	22.0%	○
可燃物排出量	可能な限り削減	kg	44,217.4	40,152.8	—	9.2%	○
グリーン購入	環境配慮型製品の 積極的購入適合率	%	99.6	97.9	—	98.3%	○
全体	CO ₂ 排出量を20%削減	平成25年度CO ₂ 排出量		1,441,643.4		19.8%	×
		令和4年度CO ₂ 排出量		1,156,321.1			

取組状況



■ エネルギー別CO₂排出割合



■ 各項目ごとの取組結果

項目	取組結果
電気使用量	目標値(対H25年度実績値)15%以上削減に対して、20.2%増となりました。R3年度より使用量は増加しています。特に夏場の使用量が増加しており、気温の高い日が続いたことにより夏場の冷房使用が増加したことが使用量増加の原因と考えられます。各施設における空調や事務機器等の適切な利用を進め、クールビズ・ウォームビズに引き続き取り組み、職員一人一人が日々継続して取組を行います。
ガソリン使用量	目標値(対H25年度実績値)15%以上削減に対して、23.9%減という結果となりました。新型コロナウイルスの影響による出張等の減少、ウェブ会議の増加、乗り合わせや電気自動車の有効活用により、全体のガソリン使用量減少につながったと考えられます。引き続き『公用自動車使用手順書』によるエコ運転を心がけ、乗り合わせや外出業務をまとめて行う等効率的に使用することに努め、電気自動車を有効活用しながら継続して取組を行います。
軽油使用量	目標値(対H25年度実績値)25%以上削減に対して、47.9%削減されました。新型コロナウイルスの影響によりマイクロバスの使用回数及び走行距離が減少したことにより、使用量を抑えられたと考えられます。大型車両は、積雪等気象により使用頻度が変わったり、利用回数や運行距離等により使用量が大きく変わりますが、引き続き適切な利用及び経済的な走行を心掛け、更なる削減を目指します。
灯油使用量	目標値(対H25年度実績値)35%以上削減に対して、40.7%削減できました。気候変動により使用量が変わりますが、こまめな温度湿度チェックによりエアコンと併用しながら暖房機器を適正使用し、職員一人一人が積極的にウォームビズの取組、利用者への啓発を継続し、今後も更なる削減を目指します。
A重油使用量	目標値(対H25年度実績値)100%削減に対して、100%の削減となりました。H29年度からA重油を使用する施設がなくなり、ボイラーでの使用がなくなったためです。
ガス(LPG)使用量	目標値(対H25年度実績値)40%以上削減に対して、75.4%の削減ができました。統合した施設のオール電化等によりLPガスの使用量は減少してきていますが、今後も使用する施設においては、無駄を省きながら、削減に向けた取組を推進します。
紙使用量	H23年度から購入量で集計を行っており、目標値(対H25年度実績値)可能な限り削減に対して、40.5%の増加となりました。R3年度より使用量は増加しています。今後も内部資料の裏面使用を推進するとともに、支障のない範囲で両面使用を積極的に行い、デジタル化推進による紙資料の削減等紙の購入量削減に向けた取組を行います。

水道使用量	目標値(対H25年度実績値)可能な限り削減に対して、22.0%の削減となりました。今後もすべての施設において節水に心掛け、担当課との連携を図りながら漏水の早期発見に努め、取り組み並びに啓発を行っていきます。
可燃物排出量	目標値(対H25年度実績値)可能な限り削減に対して、9.2%の削減となりました。各施設において廃棄物の分別を徹底し、資源ごみとの分別に努めるよう職員一人一人が意識的に取り組みます。また、紙類は古紙回収や再生工場へ持込みを行う等、リサイクルできるものは資源として排出し、可燃物の削減に努めます。
グリーン購入	目標は「環境配慮型製品の積極的購入」で、グリーン購入適合率は97.9%でした。今後もグリーン購入基本方針に基づき、物品の100%グリーン購入を目指すとともに、代用品がないものについても、可能な限り環境に配慮した物品の購入に努めます。

■ まとめ

令和4年度の二酸化炭素を対象とした温室効果ガス総排出量は、平成25年度と比較して全体で285,322.3(kg-CO₂)減少しました。これは全体の削減率で見た場合19.8%減となり、目標わずかに達成できませんでした。しかしながら、年度によって削減率の変動があるため、引き続き削減に向け努力します。

項目別に使用量で見ると、電気使用量は昨年より増加していますので、削減を目指し空調等の適切な使用に努め、引き続きクールビズ・ウォームビズに取り組んでいきます。

ガソリン使用量は昨年より微減していますが、新型コロナウイルス感染症の影響で出張等が減ったことやウェブ会議の増加が減少の理由として考えられるため、今後も削減に向けて改めて対策を講じる必要があります。公用車使用に関して、再度『公用車使用手順書』に沿った運用を心掛け、公用車を適切に維持管理し、経済的な走行や空調の使用を意識し、職員間で乗り合わせたり、外出業務をまとめる等効率的に使用するよう更に努めていく必要があります。また、電気自動車を積極的に活用し、車両の更新にあたっては必要性を十分検討し、低公害車や電気自動車に更新するなどの取り組みも必要と考えます。

可燃物排出量については、各施設において日々の廃棄物分別の徹底に職員一人一人が継続して取り組み、可燃物の減量に努める必要があります。紙類については、できる限り古紙回収に出し、平成28年度から実施している機密文書のリサイクル施設への持込みも継続して行い、今後も可燃物中の紙の排出を減らすよう努める必要があります。

紙使用量については、両面コピー・両面印刷を積極的に行い、内部資料の裏面使用やデジタル化による紙資料の削減等を推進し、紙の使用量を減らすことを徹底し、再度職員の意識改革を図り、全体で取り組む必要があります。その他の項目についても、日々の積み重ねが大きな削減につながることを理解し、職員一人一人が省エネや環境保全意識を常に持ちながら、具体的な計画に基づき、日々の取組を継続していきます。